

清流

発行
県立加古川中学校
県立加古川東高校
清流会
編集
清流会文化委員会
印刷
丸山印刷株式会社

中島

A・I・IOTの時代がやってきます



ひと昔前には想像もできなかった変革の時代が急速

にやってきました。

1、ペーパーレス

IOTの進化は急速なペーパーレスをもたらします。Faxやコピー機は必要が無くなります。

情報は必要でも印刷された新聞は無くなります。

それらの機械を作っているメーカーは仕事が無くなります。

会社においてコピーをして配布する事務職員は仕事が無くなります。インターネットで物を購入するとは当たり前になります。

高齢者ほどインターネットを使わねばなりません。

自宅からボタンを押すだけで欲しいものが届くようになるからです。

2、我が清流会

①会員情報

会誌清流はネット配信あるいは毎月記事を更新できるようにならねばなりません。

一年分の記事を貯めて配信するよ

清流会会長 大庫隆夫（高28回）

3、我が街加古川

加古川は神戸と姫路の中間の地の利があります。

加古川はJRと山陽電鉄の路線が通り東西と南北の交通の要衝です。

加古川には神鋼やハリマ化成をはじめ大きな企業が集まっています。

しかし人口流出が続いています。東京一極集中は我が街加古川にも影響を与えているのです。

田園まさに荒れなるとす。

皆さん、我が街加古川の応援も併せてお考えください。



母校に赴任して



校長 小南克己（高31回）

今春、赴任いたしました小南克己と申します。どうぞよろしくお

願いいたします。

私も東高31回卒業生です。今年度の3年生は71回生、ちょうど40歳年下になります。

また、初代の瓜生兵吉校長先生から数えて第31代目です。この符合！東高との縁を強く感じております。

もとより微力ではございますが、一人一人の生徒が活き活きと学び、成長していくため全力を尽くして参ります。

世の中は、グローバル化、少子高齢化、AI化により、大きな変革期を迎えています。

グローバル化により、中流と呼ばれる層は減少しています。また、少子高齢化により、現役世代（生産年齢人口）が急減、高齢者が急増し、年金などの社会保障制度の維持が危惧されています。

さらに、AI化により、10年から20年の間に、今の仕事の半分はなくなると言われています。

今の高校生は、このような社会を背負っていく世代です。

決められたレールの上を進んでいくことはできません。

正解の不明な課題に仲間とともに果敢に挑戦し、自分たちが納得できる答えを捻出していく力が必要です。

また、それを多くの人々に伝え、理解・共感を得ることも大切なことです。

です。

東高では、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた授業を広く行うとともに、第3期のSSH指定を受け、「課題発見から始まる探究活動」で、すべての生徒の「研究力・発信力・国際性」の向上を目指しています。

昨年8月には、全国SSH生徒研究発表会において自然科学部物理班微少重力チームが「微少重力下での濡れ性を利用した管内流の制御」をテーマに行った発表が文部科学大臣表彰（全国1位）を受賞しました。これまでの取り組みの成果だと考えています。

大庫隆夫会長様を始め清流会会員の皆様には、東高の教育活動にご理解をいただき、多大なご支援、ご協力をいただいております。「ふるさと納税」では県内有数の多額の寄付を頂き、普通教室にプロジェクトルームを整備するなど学校環境の充実のため有効に活用させていただきます。

これまでのご支援に心よりお礼申し上げます。

今後ともご理解、ご協力を頂きますようお願い申し上げます。

挨拶とさせていただきます。



追悼文

故木下正一さんの思い出

清流会 元会長

山口 勝英（高15回）



か、いつもにこやかに、誰にも優しく、後輩の面倒が見がよかった木下さん。

屋さんへは、盆・暮れ・開店記念日・ママの誕生日等の節目には必ず訪問される律儀な木下さん。スナックやクラブにもよく連れて行ってもらいましたが、私がお店の娘とやっとな話が出来たようになった頃には帰るで、と長い居はしない。帰られるのかと付いていくと次のお店入られる。ほんとによく奢っていただきました。また、旅行にもよく一緒にさせて頂き、食事時に白ワインのシャブリを好んで飲まれていたことも印象に残っています。

市長に出られる時、ご親族から聞いたことですが新聞に出馬が載り「誰にも相談もせんと、勝手に決めて」と怒ったら、相談したら皆反対するやろ」と言われたそうで、自分で決めたらぶれない木下さん。市長として頑張っておられた時、地元別府町に公民館が欲しいとの要望に、「いろいろな地域の方にお世話になって市長をさせて貰っているさかい、地元は一番最後に出来たらする」と言われ、その言葉に地元の皆さんも納得されたとか、地元でも信頼の厚かった木下さん。

私が清流会のお世話をさせて頂きつかけは、木下さんから副会長を引き受けて欲しいと電話があり、清流会に一回も行ったこと無いのに無理、とお断りしましたが副会長は6人居るしベテランも居るから出てもらうだけで良いから、と言われ了解し出席した最初の役員会で最近体調が良くないので出られない時に代行してもらったため年長の山口さんに筆頭副会長になってもらって宜しいです、と提案され了承されると、ほんなら後頼むで、と帰られてしまい、何も解らないまま皆さんに助けて貰いながら清流会に取組んだことが最初でした。その後の総会には全て出席してくださいました。木下さん、貴重な体験を有り難うございました。

亡くなられる少し前に、お孫さん連れで行きつけのスナックに行かれ楽しまれたようです。前日には、渡海代議士の新春の集いにも出席し舞台で挨拶をされ、その日の夕食は家族と取られ、ご自分の部屋に行かれたのが最後だったそうです。

最後まで自分らしい生き方を貫かれた木下さん、天上からいつまでも私たちをお導きください。有り難うございました。安らかにお休み下さい。



木下元市長の逝去を悼んで

樽本 庄一（高11回）



去る1月21日早朝に急逝された木下さんには長期にわたり公私ともにお世話にな

なつてきました。

木下さんは激戦の市長選を経て初登庁以来「開かれた市役所」「行動する市役所」を標榜され、市長室のドアをオープンにされたことが印象的でした。職員には庁舎内において頭で考えるだけでなく、地域に出かけ市民の声を聞いて自分で進んで行動するよう訓示されました。官民の交流を図るべく、公民館単位で市民と職員がともに地域づくりを考える「まちづくり懇談会」を立ち上げられたこともその一例でした。

海外との交流では、特に若年層の派遣と受入れに意を用いるなかで、国際交流協会を設立して民間の活力を導入しつつ、ブラジルのマリンガ市に青年を、ニュージーランドのワイタケレ（現オークランド）市には中学生を派遣し始めましたが、この事業には参加希望者があっても続いています。

急増する地域課題への対処としては、国県に積極的に陳情し、特に中央官庁には駆け足のごとく巡り廻ってハード事業はもとより全国川サミットのようなソフト事業も誘致されました。さらに、心も身体も健康な状態を保つ「ウェルネス」という概念を他都市に先駆けて発信し施策にも反映されたのでした。なかでもツデーマーチは全国各地からのウォーカーに対する加古川市民のおもてなしが大変好評で、日本ウォーキング協会の公式大会に認定されるなど市内外から最盛期には2万人を超え

る参加者があり加古川市の認知度を高めた施策ともいえるでしょう。日々の執務で印象に残っていることは、素早い判断力と部下を信頼していたことでしたが、決裁文書で納得できないものや意にそぐわないものにはNOとダメだしせず「もっと考えて来い」と再考を求めることが常でした。

清流会の会長時代には、旧制中学校の世代にもっと参加してもらうことを願って任期を全うされました。体育祭や文化祭などの学校行事には足を運び、さらに歴代の校長とも交流を深められていました。

これら以外にも触れるべき思い出は数々ありますが、指示されている紙幅を超えました。いまはただただ衷心より木下さんの安らかなご冥福をお祈り申し上げます。

市美術協会木下前会長のご冥福をお祈りして

加古川市文化連盟副会長

岩坂 純一郎（高20回）

市長を退任された翌年の平成15年に、当時の山本禎一会長（中3回）から請われて会長職を引き受けていた以来約15年の間、会員の融和と会の発展に尽くされた木下会長が急逝された衝撃は計り知れません。

1月21日朝方に電話を受けたとき、前日までのご様子から誰かの間違いではないかと聞き直したものです。遡る1月9日にわざわざ訪ねてみて「前々から言っているように会長を辞める、早いうちに道筋をつけろ」と言われましたが、役員の端くれである私がどうこうできる案件ではなく「生涯現役でお願いします」とお応えするほかにありませんでした。

木下市長が在任中の平成9年に、総合文化センター事業課長の仕事と

して「橋本関雪展」という大きな展覧会を開催したあと、関雪の子孫・橋本帰一氏へのお礼の挨拶に同行した際に、祇園のお茶屋で京文化の一端に触れさせていただいたことがあります。

時を経て平成22年に市を退職した後、美術協会の実務をするようにと半ば強制的に？入会する羽目になり、工芸部に属されていた木下会長の弟子という形になっていました。

会長としての木下さんは、会議は勿論ですが、強行軍の日帰りバスツアーの参加や協会展へ出品いただく一方、会員の展覧会にはほとんど初日に顔を出されていた（写真は今年2月の協会展での展示作です）。また、近年はお茶会にご一緒することも何度ありました。イベントが終わるとお誘いいただいたのが常で、何十回と馳走になったことか。若くはない私に「もつと喰え、喰え」の有難いお叱りは生涯忘れることはないでしょう。

一昨年1月に、洋画部の大庫典雄さんとお二人の米寿を祝う会を企画したところ「1年早い」と怒られながらも、黄金色の帽子を被っていたのだいたときの笑顔が忘れられません。今はただ安らかにとご冥福を祈ることしか私にできることはありません。



地域・職域支部だより

●東京支部「同窓生の集い2017」

支部長 松井 昭憲（高30回）



平成29年は11月10日に、春の新卒者・高69回生3名を含めて総勢260名もの同窓生にご出席を頂きました。加古川から600キロも遠く離れた東京の地では、この「同窓生の集い」が母校との大きな絆となっています。東京支部会員は約2千名余ですが、年次幹事さんの熱心な活動で毎年、多くの方々にご出席を頂いています。

今回のOBゲストスピーカーは私の同期の高30回・岸本健利氏（ニッカウチスキー社長）で、NHK朝ドラで話題となった「マッサン」とリタの夢を追いかけて」という演題でお話しを頂きました。大変に美しい愛の物語で夫唱婦随の人生が語られ感動致しました。

「ふるさと・加古川クイズ」の司会は今年もNHK・高瀬耕造アナ（高46回）にお願いし、同窓生有志から頂戴した沢山の賞品を、出席者に喜んでお持ち帰り頂きました。

加古川からも大庫隆夫会長（高28回）、山口勝英元会長（高15回）、安本校長先生、井上浩義校内幹事（高30回）、水埜安寛青松会理事長や、神戸新聞社・勝沼直子（東京支社編集部長）など多くの方にお越し頂き華を添えて頂きました。

東京と母校を結ぶ絆「同窓生の集い」は年1回のみ。お一人でも多くの方にお越し頂

きたいのが支部長としての願いです。私が若輩の身で東京支部長をお受けしたのは今から14年前の平成16年、その時の出席者は111名でした。今年は何とか、初めてとなる同窓生300名のご出席を実現したい、と強く願っています。遠く離れた地で先輩と後輩、時代を超えた多くの同窓生が一堂に会する、なんと素晴らしい事ではないでしょうか。

過去にない、ワクワクするような新企画を執行部で考えておりますので、是非、ご参加ください！

そして最後の願い。それは首都圏進学者の方々へのご案内です。お隣の白城会東京支部（姫路西高）では、毎年首都圏進学者歓迎会を開いています。我が清流会でも親元を離れた後輩諸君を暖かくお迎えしたいのです。これには学校のご理解と本部のご協力が頂けないと、東京支部単独の努力だけでは不可能です。なんととしてもこれを仕組みとして実現したい。東京支部長としての長年の悲願であります。今年「同窓生の集い2018」は11月9日（金）です。東日本一円は勿論、ふるさとの加古川からのご参加もお待ちしております。

（ピムコ・ジャパン・リミテッド最高経営責任者）

●大阪支部

支部長 山本 俊輔（高25回）

平成29年度大阪清流会総会は総勢64名の盛会でした。今年は大阪北浜で堺筋総合弁護士事務所の代表をされている高校52回卒業の吉田正樹氏をお迎えしました。36歳の講師はこれまでの最年少ではないかと思っています。

テーマは「10年、20年後の社会とプロフェッショナル」。事務所開設から8年、現在12名の弁護士の先頭に立って活躍されている吉田氏の熱い想いやチャレンジを語っていたきました。スライドを使いながらのご講演は大変好評で、89歳から35歳という幅広い参加者の皆様がそれぞれに、若い世代への理解を深め、大いに刺激を受け、生き方を考えるよい機会になったのではないのでしょうか。

次に大庫本部会長より清流会本部の活動等について、安本校長より母校後輩の活躍ぶりについて近況報告していただきました。

恒例のラッキー抽選会では、思いがけない豪華な景品に、司会の糟谷千恵子さんを中心に大変盛り上がりしました。

最後は、高らかに中学校校歌を斉唱された最高齢の中19回卒業の3名の方々、そして高校校歌はソプラノ歌手の杉原

真理子氏（高21回）の素晴らしい先導で唱和しました。いつもながら、会員の皆様に盛り上げていただき楽しい総会となったことに感謝致します。



●奈良支部 古都連合遺文の序

わかくさ会会長 板倉 白雨(高18回)

最初に「古都連合」という呼称を提供されたのは東京支部の方々でした。

4年ほど前の清流会支部長会議で、京都に支部がないことが話題になった。つい、京都在住の方々に奈良支部の総会に参加の声をかけようかと思っていると口を滑らした。京都の隣県、奈良としてどうだろうかという軽い気持ちだった。

京都と奈良は日本の古都だから古都連合としたら、と最初にいわれたのは東京の井上先輩で、その後も東京の岡山さんからも古都連合はその後どうですか、とお会いするたびに声をかけられた。

機が熟すというか、一昨年前の総会で京都在住の小柳さ

新支部などの話題については、以下をご覧ください。

- ・「古都連合」p4
- ・「三井住友銀行支部」p6
- ・「外地同窓会(バンコク)」p6
- ・「OB・OG 陸上部」p9
- ・「OB・OG バスケットボール部」p9



んに庭師の仕事を紹介するお話をお願いし、いよいよ昨年、京都在住の人に奈良支部の総会参加をお誘いしたところ数名の方々が手を上げられた。

そして、今年になって急転具体的動き始めたのである。

奈良支部初代会長田中先輩が、清流会会員名簿から京都在住者の住所録を作成し、そして、同志社大の学生遠藤君から京都支部を創りたいと連絡が入った。彼と話し合い「古都連合」を一緒に創ろうとたち飲み屋で氣勢を挙げるに至った。

今年は古都連合の総会の産声を9月第一日曜日に奈良の地で挙げる予定である。

●姫路支部

支部長 平田 建喜(高19回・弁護士)

開催日 平成30年2月16日(金)
開催場所 姫路キヤッスルグランヴィリオホテル

会員への開催案内には従来以上にメールを多用し、かつ若手会員の協力で新人に個別に呼びかけをしてもらった結果、前回は18名上回る47名が出席。支部長、大庫本部長



及び安本校長の各挨拶に続き、司会者が会計報告をする、来賓の乾杯の音頭で懇親会に移った。一昨年来の盛上げ役の中堅及び若手会員数名が、今回も中心的に活躍。アコーディオン演奏やカラオケで大いに盛り上がり、従来以上に活気溢れる同窓会になり、校歌斉唱、記念写真撮影で、無事終了した。

●明石支部 総会並びに特別講演

支部長 森本 眞一(高21回)

平成30年度の総会並びに特別講演は、2月15日に西明石のホテルで、本部より黒田副会長と土屋会計監査、母校から安本校長先生と八木先生をお招きし支部会員50名の参加で開催しました。

今年度の特別講演は、寺岡錠平さん(高29回)に「東高で尺八に出会って」と題し、当時の奏楽部の楽しいエピソードと尺八

の実演が行われました。素晴らしい尺八の音色に会場が一段と和やかな雰囲気になりました。また、安本校長先生からは、学区変更で明石から母校・東高へ入学する生徒が増えることや母校の近況報告をお伺いしました。



た和やかな懇親となり、最後に恒例の中・高の二つの校歌が高らかに歌われました。

来年度の総会は、2月14日(木)に同じホテルで開催する予定です。明石市内に在住の勤の皆様並びに皆様の参加を心よりお待ちしております。

●稲美支部

第29回支部総会を昨年5月7日(日)、稲美町コミュニティセンターにて開催しました。当日は本部から大西壮司会長、母校から安本直校長、佐野正明教頭にお越しいただきました。参加者は74名。第1回から毎年7月第一日曜が総会日でしたが、今回は会場の都合で時期を早めました。通知方法を工夫した結果、前年度比約2割増。第一部の事業報告では、秋のウォーキング(寺家町通り・泊神社)等が紹介されました。



西川 征志郎(高12回)



第二部は北川寿一氏(高41回、稲美町役場危機管理課)に講演「大震災から6年、被災地は復興しているか」をお願いしました。28年4月より一年間、稲美町から宮城県山元町に派遣され、町役場で復興業務に携わった経験、現地の様子等について話していただきました。第三部では地酒「倭小槌」で乾杯して親睦を深め、お互いの健康と再会を約しました。

●県庁支部

畠 充治(高29回)

10月25日、平成29年度県庁支部総会が、ホテル北野プラザ六甲荘で開催された。会員は281名、当日は、名誉会員の釜谷・岡両県議会議員、



来賓として、清流会本部から岡田副会長、加古川市から市村副市長、安本校長等をお迎えし、79名が参加。会長の糟谷県土整備部長の挨拶に続き、役員改選が行われ、新会長に畠

人事委員会事務局局長が選任された。県庁内で一大勢力となっており、更なる参加者増に向け、それぞれが同期への声かけなど、1年を通じた取組の必要性を訴えるとともに、本部総会等の報告も行った。安本校長から母校の近況報告をいただいたあと、市村副市長の発声で乾杯。和やかに交流が進む中、新規採用職員6名からの今後の抱負などフレッシュな挨拶で大いに盛り上がり、最後に、全員で声高らかに校歌を斉唱し、同窓の絆を深めた。

●神戸教職員支部

池田 浩二(高39回)

平成30年2月24日(土)、清流会神戸教職員支部総会を神戸天安閣にて行いました。12回生の坂本先生は、加古川マラソンで72回生の現役東高生と共に10キロを走られたそうです。

また、佐野教頭先生からお知らせいただいた寄付金について、全会員の皆様が快くご協力され、素敵なバッジを胸に付けてお帰りになられました。



写真 前列左から
13回 岡本武利 清流会副会長 大西淳滋郎 東高校長 安本直
12回 原戸浩三 12回 坂本俊昭

後列左から
39回 池田浩二 31回 中西利香 16回 奥田貞子 24回 松井勝美
東高教頭 佐野正明 42回 大谷弥生 39回 尾崎浩二
(敬称略)

●三井住友銀行支部

支部長 田中 義人（高37回）

今年の2月に民間職場支部としては初となる三井住友銀行支部を発足させて頂きました。

現在の三井住友銀行の現役行員数は東西並びに海外も含めて51名です。やはり当行は旧太陽神戸銀行をルーツとすることもあり、加古川東高校の卒業生にとっても一番身近な銀行なんだと嬉しく感じています。

今回ご縁があり大庫会長から支部発足のお声掛けを頂いたことは非常に名誉なことであり、微力ながら支部員共々清流会の活動に貢献できればと考えております。

諸先輩方のご指導ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。



●外地同窓会 バンコク

はじめまして。38回生の富士原寿治と申します。大庫隆夫先輩から会報の外地同窓会用に写真を送って欲しいとのこと依頼を受け、送らせて頂いております。

今、バンコクに住んでいますが定期的に卒業生が集まっています。

ゴルフ場の写真は35回生の西川さん（写真右から2番目）が来られた際に集まったものです。右から守谷さん（43回）、西川さん（35回）、



富士原 寿治（高38回）

富士原（38回）。会食事のは上海から石田さん（37回）が来られた際に集まりました。右から石田さん（38回）、1人飛ばして一番左が谷川さん（36回）です。



年次会だより

中21・高1

平成29年度同窓会

世話人 森玉 武文

米寿の同窓会を神戸組が担当し、11月2日西明石ホテルキャッスルプラザに11名が集まった。

今年も元気で出席出来たことを互いに喜び、亡くなった懐かしい友に黙祷をした後、

思い出・近況や体調などの情報交換で、時間の過ぎゆくことを忘れるにぎやかな楽しい時間を過ごしました。

最後に 矢作 衆蔵 作詞
加藤 忠男 作曲
の加古川中学校校歌「流れてつきぬ加古の川……」を斉唱。
来年も元気で再会を（清流会総会・同窓会）約して別れた。
来年の担当は「明石組」。



（出席者）
井上 礼次郎（三木）
岩本 隆夫（加古川）
大西 賢一（明石）
金川 俊成（加古川）
小南 道員（加古川）
竹内 隆（神戸）
二川 和良（加古川）
西野 和豊（高砂）
藤田 嘉博（神戸）
宮永 弘兄（加古川）
森玉 武文（神戸）

（敬称略）

高3回

砂時計

(燦三会)

年次幹事 畑谷 芊一

「砂は、少しずつ落ち気にはとめない。でも次第に落ちて、後僅かになると早く落ちるように見え、止めることは出来ない」(映画・ベニスに死す・1971・伊仏)

会毎に参加者は減る。将に減っても増えない同窓会。今回16年ぶりの参加があり、更なる参加を願う事大である。

盛会時のビデオを写し、懐かしい交友・交遊の頃を偲び、特技のハーモニカ演奏を

聞きながら、加古の過去を話し合った。

元気なら集まるという約束だが、次第に体調不良者が増える。なお、少人数でも続けたい。三木の金物をお土産に頂いた。また、嬉しがらずや。

老化が進む今、年を重ねる事は難しくなったが「なおひと夏なおひと冬」(枯れた枝・ヘッセ詩集)と、季節を追って、飽くなく生き続けるしか術がない。

ユビキタス(情報技術)社会が進む中、昭和一族は、旧交を求め、アナログ時計を見続けながら、秋の再会を待つ。

高4回の年次会から本会に寄付をいただきました。

¥50,000-

特記して感謝申しあげます。

高6回

元気はまだまだ！

前田 功

この5年間、毎年同窓会をもってきた。4月21日開催に固まりつつあったが、今年は都合で4月27日に実施した。

ハナミズキの美しい季節であった。なかでも純白の花が陽光を受けて眩しく感じられ、季節はすでに初夏であった。

参加者は35名。この5年間で最も少ない人数であった。

不参加の理由も「からだの不調」が多くなり、このあたりで一年休んだらどうかと提案したが、そうすればかえって出にくくなるのではないかと意見が多く継続することにした。

会が始まれば、みんな意気盛んであった。ふだん医者にかかっていることも、年齢のこともすっかり忘れ、若いころに戻って話しがはずんだ。まだ若いときの夢を果たしていないといつて意気込むものもあった。校歌も高音部は声がかすれたりしたが元気よく頑張つて歌った。まだまだ元気だと言わんばかりの感じであった。

来年、また顔を合わせることを誓いあつて散会した。



高16回

同窓会開催

平成29年11月10日、加古川プラザホテル内『東京田村』にて、40名の参加者のもと、16回生同窓会を開催いたしました。

約二時間半、座席を入れ替わり立ち替わり食事もそこそこ話に花が咲きました。開催日直前に参加予定者の一人が緊急手術を余儀なくされたこともあり、話す内容はもつ

高9回

満80歳記念同窓会 予告

元清流会副会長・元東高PTA会長 十倉 茂明

昭和32年卒業の9回生は今年満80歳を迎える。めでたいのか、よくどこまで頑張ったのか。鬼籍に入った者も多いがそれなりに足跡を残した者もいる。一例、東京大学教授、東大卒業者は多いが大学に残り教授になったのは、清流会の中でも彼だけではない。か。母校創立70周年には記念講演もしてくれた。大阪高等裁判所裁判官もいた。クルーズ船「飛鳥」の船長もいた。

同級生が船長でいる間にクルージングを楽しみたかった。彼果日本画壇の重鎮もいる。彼女の大作は母校本館1階に展示してある、ご覧あれ。地域医療を支えている医師も、奈良県、福崎町、平岡町で活躍している。

幹事代表 清田 康之

ばらお互いの健康状態についてでした。70歳を過ぎると、半数を超える人が、何かしら体調に問題があるようで、まるで健康についての意見交換会のようなでした。

来年もまた、一年に一度の昼食会のつもりで、それまでお互い元気に参加しようと約束し、同窓会をお開きにしました。



9回生卒業生たち1957、2、27卒業式の日に撮影後ろに写っているのは体育館

高28回

還暦同窓会

幹事代表 芦田 美佐子

去る2018年1月3日、わが28回生の還暦同窓会が、加古川プラザホテルにて開催されました。高校卒業10周年を機に始めた五年に一度の同窓会も八回を数え、今回は還暦を記念しての特別開催となりました。思い出多き恩師(あ、林田温泉ジャングル風呂…)五名をお迎えし、同窓生は、今回が初同窓会の人も含め、北は仙台、南は九州、そして遙かドイツからも参集して、総勢百名の盛大な会になりました。

今回は、それぞれの仕事も一応の区切りを迎える人が多いこともあり、恒例の30秒スピーチでは、それぞれが成し遂げてきた業績や辿ってきた人生の一端を垣間見ることができました。三十秒を知らせる無情の鐘の音をものともせず、エネルギーに語られる内容の豊かなこと! 命の誕生に真摯に向き合う助産師さんに始まり、保育園、小学校、中学校、高等学校、そして大学に至るまで、日本の教育・先端研究を担ってきた面々。日本中、世界のあちこちにまでメイドインジャパンを広げてきた企業戦士達(ちよこつとお託びもありましたが…)。生活を守り、健康を支えてくれる保険屋さん、お医者さん、

役場の方々、安心・安全な食べ物作りに携わる人たち。税金対策、資産管理は任せてねとファイナンシャルプランナー。定年を前に職を辞し、世のため人のためと政界進出を果たした強者等々多種多様で、社会への貢献度もはかり知れず、ここにはとても書ききれません。そして「命を全うする折には頼ってね」と、長生き宣言するご住職に、一同合掌。予定時間を大幅に超えての豊穡な時間でした。

少しずつ増える物故者に黙祷を捧げ、「あと何回、この人数で集まれるかな…。」との声も聞かれましたが、まだまだ元気な28回生、お互いの健康を祈念し、2年後の再会を約束して、スタートから7時間後に3次会が開きとなりました。まだ同窓会デビューしていない28回生の皆さん、集う門には福来る。次回はぜひ!



高58回

30歳記念同窓会

永島 陽子

平成29年12月30日加古川プラザホテルにて30歳の節目に卒業後初めての同窓会を開催しました。年末の忙しい中103名の同窓生が参加、恩師の村尾雅幸先生、野村秀彦先生、松浦文佳先生、池田進先生もお越し頂き盛会となりました。

卒業以来ということもあり緊張した面持ちの人も多かったですが人が集まるにつれ和やかな雰囲気。会は3年次



のクラスに分かれスタートしました。クラス代表者や恩師の近況スピーチでは卒業後12年の積もる話で時間が足りなくなるのではないかと思ったり程盛り上がり、あつという間の2時間でした。次回は5年後開催を目標にしていますので多数の参加をお待ちしています。これを機にフェイスブックで回生専用ページを作りましたのでこちらも是非参加下さい。

高63回

成人式から5年の時を経て

西田 早織

成人式の時、地元加古川プラザホテルにて63回生として初めての同窓会を企画しました。その時は、100名を超える同窓生が集いました。今回あれから5年という節目にあたって、もう一度つかしい顔ぶれに会いたいと思い、開催に至りました。社会人として各人様々な場所、立場で活躍されており、なかなか人数は集まらなかったものの、やはり一度出会うと思

い出話や近況など話は尽きませんでした。卒業アルバムを用意し、恩師にまつわるゲームをしたことで、その当時を思い出し、懐かしい話に花が咲くのでは。会の最後には、大阪でレストランの店長として活躍する仲間から「次回は是非うちのレストランで開催しましょう。」という嬉しい提案がありました。懐かし



OB・OG

設立20周年を迎えた「清流陸友会」

陸上部OB相互の親睦を深め、現役の後輩達に物心両面から応援することを目的として発足した「清流陸友会」も早いもので20周年を迎えました。

会設立には故北野真宏（高1回）先輩を中心にOBの皆さんが何度も議論を重ねられて、会設立の基本的な理念や活動計画、会員名簿を作られました。

基本理念とは、OBの親睦会にとどめることなく、加古中・加古川東校陸上部の歴史と伝統を伝承して陸上競技の発展に寄与し、現役選手の競技生活の向上を支援し、心豊かな人づくりをしようというものです。

設立時の作業の中で特に大変だったと思われるのは会員名簿の作成だったと思います。何しろ旧制中学時代から現代までの陸上部員すべての名を調べ上げる訳ですから何度も学校に行かれ卒業生の名簿と照合するなど気の遠くなるような作業が必要だったと思われまふ。当時この作業に中心となつて取り組んで下さった宗佐昌巳（中19・20回）先輩のご努力には頭が下がります。現在の会員数は、昨年卒業の高69回までで1034名（内物故者120名）です

がその名簿は当時の名簿が基本となつています。

さて現在の陸上部は毎年70名前後の部員を擁し、IH地区予選や各記録会においては優秀な成績を収めています。

平成24年には松本岳大君が全国IH400Hで優勝、同年スペインバルセロナで行われた世界ジュニアにおいて同種目で銀メダルに輝くなど加古川東高校の名を全国に印象づけてくれています。

私たち清流陸友会の活動ですが、会誌「スパイクの足跡」の年1回の発行、在校生へのTシャツの贈呈や練習器具の購入等を行つてきております。残念ながら財政面においてはここ数年厳しい状況が続いておりまして、あれもしたいこれもしたいと思つても新規事業に取り組みにくいのが現状であります。

狭い練習場、限られた練習時間など制約が多い母校の部活環



会場：鹿児島川荘

藤本 敏介（高22回）

境ではありますが、顧問の先生方のきめ細かいご指導で選手を育てていただいていることに心より感謝申し上げます。今年も30名を超える入部者があつたとのこと、全国で最もレベルが高いといわれる近畿地区ですが、突破して全国へ、そして2年後のオリンピックでは新しい国立競技場で活躍し、日本国中に沸き立つ感動を与えてもらいたいと願っています。

OB・OG

清流会バスケットボール部OB・OG会

1972年のミュンヘンオリンピックに先輩の沼田宏文さん（当時大学生 22回生）がご出場されました。その際にOB・OG会と現役部員（私は高校1年生）を含め皆で壮行会を開いたのを鮮明に覚えております。オリンピック選手を輩出したクラブに所属している喜びと誇りを胸に、日々楽しく部活動をしていたように思います。

バスケットボール部の現役諸君の戦績も、男女とも県大会上位や近畿大会出場など、輝かしい歴史が連綿と続いています。そして清流会バスケットボール部OB・OG会

は、他の部活動にない稀有な発展、伝統を築いています。総会及び現役選手との交流戦とフリースロー大会、また新年早々の若いOBと現役選手との交流戦、会報の発行、そして夏の合宿時の激励訪問等近年ますます充実しております。

私は本会の目的は三つあると考えています。一つはOB・OG会の皆様の親睦、もう一つは現役部員の支援を図ること、そして、現役とOBとの相互の交流による互いの成長が図れると考えています。現役諸君はバスケットの技術のみならず人生のヒント

をいただけたら、OBは若い現役諸君から元気をいただけたらしています。

母校加古川東高校も、100周年に向けてますます発展されているところ

です。清流会バスケットボール部OB・OG会も近年ますます充実しておりますが、今後さらに、多様な親睦を企画するとともに、現役諸君の強化と支援、母校の発展に貢献できればと切に願っています。



会長 加古 博志（高26回）

会員だより

60歳、新たな挑戦 「ふるさと創生」

高砂商工会議所会頭

森本 幸吉（高28回）



東高を卒業して42年が経ち、私は還暦を迎えまし

た。今年の正月には、28回生で盛大に還暦祝賀同窓会を催し旧交を温めながら、人生100年時代「60歳からの青春を謳歌しよう」と新たな門出を誓い合いました。

私のこれまでの人生を振り返ってみますと3つの挑戦がマイルストーンとなっています。

1つ目は17歳、東高青春の挑戦です。生徒会長として「明るい生徒会づくり」に取り組みしました。当時流行の3無主義（無気力・無関心・無責任）に異を唱え、生徒会活動への参画を促し協働を目指しました。運動会、文化祭はもとより、放課後フオークダンス開催など交流機会の拡大に努めました。応援や賛同の声を痛める日々でもありました。多感な年頃の体験は私の生き方に大きな影

響を与え、リーダーの有り様を学び、生涯の友を得ました。

2つ目は、29歳の起業という挑戦でした。当初は、家業の材木店承継を目指しましたが、時代の変化を見据え、新たにホームセンターを起業しました。知識も経験もない素人集団を率い、新米社長として寝る間も惜しんで働きました。悪戦苦闘の日々が続きましたが、懸命の努力が実り、事業は軌道に乗り始めました。その後30年間、様々な業態に挑戦し事業展開を図って成長を目指しました。お陰様で昨年、(財)経営革新支援機構より全国企業品質優秀賞を受賞することが出来ました。

3つ目は60歳、まさに現在の挑戦です。高砂商工会議所会頭として、地元経済の振興に汗を流す毎日です。時代は第4次産業革命、AI・IoTが著しい進化を遂げる激動期に、未来志向で「破壊と創造イノベーション」を起こし、持続的成長へ道筋をつけたと思っています。

私の人生に処する源には、成長の機会を与えてくれた加古川東高とその人的ネットワークがあります。皆様のご支援をいただきながら、母校愛、地元愛を胸に、イノベーションに挑んでいきます。

赤ちゃんポストの理念を受け継ぐ 「小さないのちのドア」設置を 目指して

永原 郁子（高28回）



神戸の北野の異人館辺りからさらに六甲山の系山並みまで

15分ほど登ったところにマナ助産院があります。開業して25年、2100人ほどの赤ちゃんが産声を上げました。出産以外にも母乳支援、育児相談、性教育、助産師教育、夫婦のもめごと相談など仕事は多岐に亘ります。

そして今、新たに取り組んでいることは、育てることができないと追い詰められた妊婦や女性が24時間訪れることができる「小さないのちのドア」の設置です。特別養子縁組や行政などにつなぐ仕組みを構築しています。

虐待事件が後を絶ちません。今年になつて7人の新生児の遺体遺棄事件が報じられました。また人工妊娠中絶も統計上では1日約500人、実数はその倍以上と言われています。計り知れない可能性を有した小さないのちが奪われ、同じ数だけの女性の悲しみがあります。このようないのちを守るために熊本の慈恵病院が10年前に赤ちゃんポストを設置され、多くのいのちを救ってこられました。しかし法的には認められず、出自の問題と無助助産が7割にも及ぶことから、その評価は大変厳しいと言

わざるを得ません。

私共も当初はポストの設置を目指しましたが、行政との話し合いの結果、児だけを置いていくポストではなく、面談できるドアの設置となりました。これによって母子、二つのいのちに関わることが出来ます。「保険証がなくても大丈夫。診察料もいりません。三宮や神戸駅からタクシーで来てください。こちらでお支払いします」とパンフレットなどで呼び掛けています。

この「小さないのちのドア」は2018年9月から開始します。日本で初めての試みということもあり、ここに至るまでに何度も大きな壁の前に立ち尽くしました。3月にはバツクアップしてくださっていたNPO法人が撤退され、マナ助産院単独の事業となるなど、課題は山積ですが、「最も小さないのちが最も大切にされる」ことが真の豊かな社会への一歩と確信して、いのちのドアが開くのをそつと待ちたいと思います。同窓の皆様のご理解と応援を何卒宜しくお願い申し上げます。



人生を変えた 23年前

大西 賞典（高32回）



1995年1月17日、未曾有の被害をもたらした阪神・淡路

大震災。発生直後より家業（ごくらくや佛壇店）のお客様から「仏壇が大変な状態、何とかしてほしい」と電話が殺到。発災数日後より激震地神戸に入ります。しかし住宅地図はあてにならず目印すら無い。そのようなかで東灘区田中町付近を歩いていたとき、小学校5・6年生位の子どもとすれ違います。その子は「お父さん、お母さん」と泣きながら両親を探しているようでした。これは今でも目に焼き付いています。当時の私は、地域活動に興味も無く『防災』という言葉すら理解していません。そんな私はお客様宅を探すのが精一杯、その子どもに声を掛けることをしなかつたのです。その日の深夜に帰宅、息子達の寝顔を見て涙が止まらず、何故あの子どもに声を掛けてあげなかつたのか。一緒にお父さんお母さんを探せばよかったのではと、人生の中で一番悔いの残る瞬間をつくってしまったのです。不思議なことにはその年の秋、地域活動やPTA活動への参加依頼を受けました。あの日のことがなければ「私は仕事忙しいので」とお断りをしていただしよう。でもあの日の償いではありませんが、すべてお手伝いさせて頂くことになりました。あの瞬間

「しよすけ！今までの自分でいいの？それとも今からの自分に変わるのか？」と人生の道標を見せられた気がしています。

そのような経験から仏壇屋という仕事と平行して防災活動を担うようになりました。加古川グリーンシティ防災会長を務めて20年、防災伝道師として講演活動を15年、地元パンラジオでは防災番組『防災ショツトバー』も10年務めさせて頂いています。全国の講演会で「私も加古東です」と声を掛けて頂く度に涙が出るほど嬉しく、同窓の強い絆を感じています。

さて、あなたは防災をひとことで語れますか？私はこのように伝えていきます。「防災とは自分の大切な人を守ること」。その為にやることは山ほどあります。地域コミュニティへの参加もそのひとつ。最後に、防災活動は災害の為に活動するのではなく、普段の生活に防災を組み込み、日常の中で育む『生活防災』が重要です。そして一番簡単で最も重要な防災活動は「あいさつ」です。還暦を前にしても「しよすけ！」と声を掛けてくださる方々に心から感謝です。



2018年度入試概況

2018年度センター試験の志願者数は582,671人(昨年575,967人・前年比101・2%)、本試験の外国語受験者数も548,465人(昨年540,941人・前年比101・4%)といずれも増加しました。大学入試センターが発表した志願者数の現卒別の内訳をみると、現役志願者数は昨年より1,728人増の473,570人(前年比100・4%)、既卒生志願者数も4,830人増の103,948人(同104・8%)といずれも増加しました。高校卒業生が昨年から約1万4千人減少する一方で、現役生の志願者が昨年並みに留まったのは、センター試験の現役志願率(センター試験現役志願者数/高校卒業見込み者数)が上昇しているためです。現役志願率が上昇している背景としては、推薦・AO入試でセンター試験の利用が拡大していることも要因でしょう。また、既卒生志願者の増加は、2017年度入試が私立大で合格者絞り込みがあるなど厳しい入試であったことも影響しています。

センター試験は2020年1月の実施を最後に廃止され、2021年からは「大学入学共通テスト(以下、共通テスト)」が導入されます。こ

れは、国が進める大学入試改革の環境で、学力の3要素である「思考力・判断力・表現力」を評価する目的で新たに実施されるものです。2017年12月には、「共通テスト」導入に向けた試行調査の問題が示され、対話形式での出題や、文章や図表など複数の素材から考えさせる設問が目立つ内容となっていました。

今年のセンター試験の問題では、全体として大きな変化はなかったものの、この入試改革の方向性を踏まえた新しい形式の出題がみられました。例えば国語「現代文」の第1問では、本文に付された図(写真)に関する生徒の話し合いが紹介され、そのうちひとりの会話が空欄補充問題として出題されました。また、英語「筆記」では、第2問の対話の流れを読み取る問題や、第3問の話し合いの発言内容をまとめる問題が出題され、より実践的なコミュニケーション能力を問う傾向が強まりました。多くの国公立大で必要となる7科目の受験者平均点は、文系型で昨年より2・9点ダウン(河合塾センターサーチによる。以下同じ。)の563・7点、理系型で0・7点アップの571・3点とどちらも大きな変動はありませんでした。文系は、地歴B科目や「倫理・政治・経済」で平均点が上昇したものの、「英語

(リスニング)、「国語」に加え、選抜者の多い「生物基礎」で平均点がダウンしたことが影響しています。一方、理系は、多くの理系生が受験する「化学」や選抜者の多い「地理B」での平均点アップが、「英語」「国語」などの平均点ダウンを相殺したかたちとなりました。

本校卒業生の難関10大学への合格状況を簡単にまとめておきます。

(一)内は現役生数です。東京大4(4)、京都大20(17)、大阪大26(19)、北海道大2(1)、名古屋大4(2)、神戸大31(24)、九州大7(5)。難

70回生 進路状況

	進 学						就職	予備校等	計
	4 年制大学			大学校	専門 学校	短大			
	国立	公立	私立						
男	93	18	13	0	0	0	0	34	158
女	72	30	61	0	2	0	0	35	200
総計	165	48	74	0	2	0	0	69	358

最近卒業生大学合格状況(延べ人数)

	平成30年3月		平成29年3月		平成28年3月	
	70回生	過年度	69回生	過年度	68回生	過年度
国立4年制大学	170	43	132	47	120	56
公立4年制大学	58	15	82	17	97	17
私立4年制大学	377	158	381	169	429	174
私立短期大学	0	0	0	0	1	0
大学校	0	0	0	0	0	1
計	605	216	595	233	647	248

関国立10大学計94(72)となっています。医学科には、現役生が神戸大に、過年度生では岡山大にそれぞれ1人ずつが合格しました。国公立大学にはのべ286人、現役生では228人合格し、学年全体の6割強が国公立大学に合格しました。また、私立大では、慶應義塾大4(4)、早稲田大3(1)、同志社大44(28)、立命館大50(44)、関西大65(40)、関西学院大133(88)となっています。くわしくはホームページをご覧ください。

平成29年度 清流会表彰者

1.学校内での活動

(ア)部活動において優秀な成績を収めた者（計 54 名）

①運動部：県大会3位以上の個人またはチーム（エントリー人数分）

陸上競技部（2名）

組	氏 名	顕 彰 内 容	組	氏 名	顕 彰 内 容
3-2	日下部 駿	平成28年度 第67回兵庫県高等学校ユース陸上競技対校選手権大会 男子4×100m 2位	3-9	瀧野 貴大	平成29年度 第70回兵庫県高等学校陸上競技対校選手権大会 男子100m 3位

②文化部：運動部に準ずる

吹奏楽部（35名）

組	氏 名	顕 彰 内 容	組	氏 名	顕 彰 内 容
3-2	池田 晴人	第66回関西吹奏楽コンクール出場 銀賞受賞 第67回関西吹奏楽コンクール出場 銀賞受賞	3-1	西田菜々穂	第66回関西吹奏楽コンクール出場 銀賞受賞
3-2	竹内 稚葉		3-2	都筑 舞	
3-2	戸田 沙慧		3-2	塘中 彩乃	
3-4	内木場功樹		3-3	向井 彩菜	
3-4	水谷 円香		3-4	石田 早李	
3-5	江向 春佳		3-4	福永 千聡	
3-7	有馬 朱音		3-5	川勝みのり	
3-7	河上 諒耶		3-5	柳井原早良	
3-7	永井 綾乃		3-6	江崎 莉央	
3-7	平子 真菜		3-6	金尾 明香	
3-8	義農 千裕		3-6	高木 咲恵	
3-8	高麗英里奈		3-7	石原 実希	
3-9	折原 大和		3-7	伊保 郁花	
3-9	近藤優太郎		3-7	籠谷 咲月	
3-9	蛭田 咲輝		3-7	平井 亘	
3-9	吉川 静流		3-8	松野 愛未	
			3-9	相坂菜々子	
			3-9	大森 英恵	
			3-9	福井 胡実	

ソフトテニス部近況

平成30年度の男女ソフトテニス部は、男子が3年生13名、2年生22名、1年生18名、女子が3年生5名、2年生7名、1年生7名の合計72名で活動を開始しました。本校の運動部の中でも人数が多い部活動で、大型バス2台を貸し切って移動する時があるほどの大所帯です。

ソフトテニス専門の教職員がいなため、男女ともに、キャプテンを中心に自分たちでメニューを考えるなど、生徒主体の運営をしています。夏は日差しが強い灼熱の太陽の下、冬は氷が張り寒風が吹き荒れる中、日々練習に励み、着実に力を付けてきました。昨年は、男女ともに近畿高校選手権大会（県総体の上位戦）の団体戦に出場しました。（写真1）特に、女子は県ベスト8に入り、2年連続での出場でした。また、今年1月に開催された、県ベスト16以上のペアのみが出場できる近畿高校選抜インドア大会（県新人戦の上位戦）の個人戦にも、男子2ペア（綾木・梅中ペア、四宮・田中ペア）が出場しました。良い流れが続いています。

本年度の東播地区春季大会（地区総体）でも、男女団体、そして男子4ペア、女子3ペアが勝ち進み、県総



写真1

体への出場権を得ました。今年度も良い結果をご報告できるのではと期待しているところです。

前述のような結果を残せるのは、生徒たちの頑張りはもちろんですが、恵まれた設備のおかげです。県下でも有数の横並び8面のコート（写真2）だけでなく、ふるさと納税の部活動支援事業で、クールダウン・片付け用のLED照明が、今年1月に設置されました。「雨が降ったら、池が出現する」と言われるほど酷かったコートも、昨年3月に一部補修工事が入り、以前に比べて水はけが良くなりました。ソフトテニス部のOB・OG組織である清流会テニスクラブからは、毎年ボールのご支援を頂いています。多くの方々にご協力・ご尽力頂き、気持ちよく練習できています。心から感謝申し上げます。

ソフトテニス部の先輩方の中には、インターハイに出場し大活躍された先輩や、80歳を過ぎても現役で大会に出場されている先輩もいらっしゃいます。ハードルが高く難しいですが、先輩方を少しでも超えていけるように、チーム一丸となって頑張ります。今後も、応援宜しくお願いいたします。



写真2

自然科学部 (13名)

組	氏 名	顕 彰 内 容	組	氏 名	顕 彰 内 容
3-1	神崎 彩乃	第12回高校環境化学賞 松居記念賞(最優秀賞) 水膜チーム「濡れ性を利用した環境にやさしい防汚瓦の開発」 第12回朝永振一郎記念 科学の芽 奨励賞(第2位) 第19回化学工学会学生発表会 優秀賞	3-3	田島 晴香	第9回益川塾シンポジウム 塾頭賞 真砂土チーム「花崗岩の風化による土砂災害への影響」 神戸大学 高校生・私の科学研究発表会2016 優秀賞
3-1	玉田 麗	平成29年度SSH生徒研究発表会 文部科学大臣表彰(全国1位) 微小重力チーム「微小重力下での濡れ性を利用した管内流の制御」 平成29年度 ゆずりは賞 第13回 日本物理学会Jr.セッション2017 優秀賞 第41回全国総合文化祭みやぎ総文2017研究発表物理部門 優秀賞	3-5	筒井 雄太	第12回高校環境化学賞 松居記念賞(最優秀賞) 水膜チーム「濡れ性を利用した環境にやさしい防汚瓦の開発」 第12回朝永振一郎記念 科学の芽 奨励賞(第2位) 第19回化学工学会学生発表会 優秀賞
3-1	三俣 風花	第11回朝永振一郎記念 科学の芽賞(最優秀賞) 粉粒体チーム 「『粉体時計』の実現報告及びそのメカニズムの数理的考察」 第13回 日本物理学会Jr.セッション2017 奨励賞	3-6	荒谷 健太	平成29年度SSH生徒研究発表会 文部科学大臣表彰(全国1位) 微小重力チーム「微小重力下での濡れ性を利用した管内流の制御」 平成29年度 ゆずりは賞 第13回 日本物理学会Jr.セッション2017 優秀賞 第41回全国総合文化祭みやぎ総文2017研究発表物理部門 優秀賞
3-2	岡部和佳奈	第11回朝永振一郎記念 科学の芽賞(最優秀賞) 粉粒体チーム 「『粉体時計』の実現報告及びそのメカニズムの数理的考察」 第13回 日本物理学会Jr.セッション2017 奨励賞	3-6	大西 巧真	第11回朝永振一郎記念 科学の芽賞(最優秀賞) 粉粒体チーム 「『粉体時計』の実現報告及びそのメカニズムの数理的考察」 第13回 日本物理学会Jr.セッション2017 奨励賞
3-2	頃安 祐輔	平成29年度SSH生徒研究発表会 文部科学大臣表彰(全国1位) 微小重力チーム「微小重力下での濡れ性を利用した管内流の制御」 平成29年度 ゆずりは賞 第13回 日本物理学会Jr.セッション2017 優秀賞 第41回全国総合文化祭みやぎ総文2017研究発表物理部門 優秀賞	3-6	籠谷 昌哉	第11回朝永振一郎記念 科学の芽賞(最優秀賞) 粉粒体チーム 「『粉体時計』の実現報告及びそのメカニズムの数理的考察」 第13回 日本物理学会Jr.セッション2017 奨励賞
3-2	田村 笙	第9回益川塾シンポジウム 塾頭賞 真砂土チーム「花崗岩の風化による土砂災害への影響」 神戸大学 高校生・私の科学研究発表会2016 優秀賞	3-6	東森 碧月	第9回益川塾シンポジウム 塾頭賞 真砂土チーム「花崗岩の風化による土砂災害への影響」 神戸大学 高校生・私の科学研究発表会2016 優秀賞
3-3	岩本 南美	第9回益川塾シンポジウム 塾頭賞 真砂土チーム「花崗岩の風化による土砂災害への影響」 神戸大学 高校生・私の科学研究発表会2016 優秀賞			

課題研究 (3名)

組	氏 名	顕 彰 内 容
3-1	古賀 結子	第19回化学工学会学生発表会 優秀賞 「丹波春日の湧水の水質特性と付加体との関係」 (地学班)
3-1	壽 強佳	
3-1	品田 瑠璃	
3-1	西山 翔登 (重複)	
3-1	玉田 麗 (重複)	

2.学校外での活動

(イ)その他(計1名)

組	氏 名	顕 彰 内 容
3-1	西山 翔登	第11回 科学地理オリンピック日本選手権 銅賞



以上 55名(内重複2名)

母校の人事異動

■退職された方

校長 安本 直

滝川第二中学・高校 校長へ

主幹教諭 上月 修 保健体育

本校再任用へ

教諭 古木 繁治 地歴公民

教諭 北須磨高等学校(再任用)へ

教諭 永光 弘明 理科

■離任された方々

教諭 大江佐智子

国語 小野高等学校へ

教諭 本多 利充

数学 明石西高等学校へ

教諭 山本 頼彦

国語 神崎高等学校へ

教諭 古川 陽子

英語 赤穂高等学校へ

教諭 長野 拓弥

理科 夢野台高等学校へ

教諭 田中 諾子

国語 相生産業高等学校へ

教諭 大田 亮介

英語 尼崎西高等学校へ

教諭 峯 幸太郎

数学 家島高等学校へ

養護教諭 黒瀬 愛

明石清水高等学校へ

臨時実習助手 高島 優実

姫路南高等学校(臨時講師)へ

主 査 野波 理恵

高砂高等学校へ

臨時校務員 蓬萊 晃次

姫路商業高等学校へ

■着任された方々

校長 小南 克己

加古川南高等学校(校長)より

教諭(再任用) 上月 修

保健体育 本校退職再任用

教諭(再任用) 松田 辰喜

英語 北須磨高等学校より

教諭 岸本 章

数学 明石西高等学校より

教諭 大西 裕介

英語 相生高等学校より

教諭 猪熊 健一

国語 小野高等学校より

教諭 伊庭 聡一

理科 県立大附属高等学校より

教諭 西田 薫

国語 須磨友が丘高等学校より

教諭 宇田川敦司

数学 三木東高等学校より

養護教諭 森村 詩乃 新採用

臨時講師 船本 啓三

理科 小野工業高等学校より

臨時講師 有塚あすか

理科 兵庫高等学校(臨時実習助手)より

臨時実習助手 山本しずか

姫路南高等学校(非常勤講師)より

主 査 安倍 直子

松陽高等学校より

日々雇用職員 播磨 秀文

日々雇用職員 植田 裕香



ふるさとひょうご寄附金
“県立学校環境充実プロジェクト”で

東高を応援!

卒業生の皆様・地域の皆様 よろしく申し上げます



加古川東高校に「新たな学びの創造と教育環境の充実」を

高 Challenge The World *more*

1924(大正13年)創立 兵庫県立加古川東高等学校 普通科・理数科

ふるさとひょうご寄附金制度を利用して、東高を応援してください!

加古川東高校は約1世紀に亘る歴史があります。地域、日本、そして世界で活躍する人材を多く輩出してきた伝統校です。加古川東高生の活躍は卒業生の皆様、地域の皆様の活躍でもあります。生徒達の更なる活躍のためには皆様のご支援が必要です。どうぞよろしくお願いします。

お住まいの自治体に納めている住民税などから一定限度まで控除される場合があります。

これまでの寄附金の活用状況等は、本校のホームページでご覧いただけます。

<https://www.hyogo-c.ed.jp/~kakohigashi-hs/khki fu.html>

寄附金を活用する事業

(寄附金の具体的な使用方法)

① アクティブ・ラーニング等

新たな学びを支援する

ICT機器の整備

② 国際交流の充実

③ 充実した部活動を支援する

ための環境整備

④ グローバル教育の推進

《寄附の申し込みについて》

ご不明な点がございましたら、本校事務室(079-424-2726)までお問い合わせください。

また、制度の詳しい説明は兵庫県教育委員会財務課ホームページをご覧ください。

奨学金の給付事業を行う 公益財団法人青松会から

理事長 水埜 安寛（高15回）



青松会は、奨学金の給付事業を行う公益財団法人です。

青松会は、加古川東高校生に対して奨学金の給付を行っています。

青松会は、昭和50年に教育振興のため、生徒の就学援助を行い、心身の健全な育成を図ることを目的に、清流会の先輩会員により設立されました。

青松会は、設立以来43年、基本財産の運用と清流会会員の皆様からの寄付金により、奨学金の給付事業を行っています。

青松会は、清流会会員の皆様から多額の寄付を頂いています。

青松会は、兵庫県より平成24年4月に公益財団法人の認定を受けています。

青松会を、より多くの清流会会員の皆様に知って頂き、ご支援を頂くようお願いして、同総会報（清流）に掲載させて頂きました。

青松会に対する寄付金は、税法上の寄付金控除の対象で優遇されます。

青松会は、下記の役員で奨学金の給付事業を行っています。

公益財団法人青松会 役員

平成30年7月1日

理事長	水埜 安寛（高15）				
副理事長	大庫 俊介（高19）	岡田 義則（高23）			
専務理事	山田 拓史（高13）				
理事	泉 正紀（高25）	大西淳滋郎（高29）	坂田 克己（高36）	藤本 陽一（高24）	
	松尾 将勝（高27）	水埜 浩（高33）	森本 幸吉（高28）	脇谷 政孝（高33）	
監事	渋谷 哲（高28）	三宅 隆宏（高14）			
評議員	大西 壯司（高21）	加古 武史（高36）	籠谷 紘義（高13）	釜谷 研造（高2）	
	十倉 茂明（高9）	富田 鋈也（高8）	宮宅 勇二（高24）	山口 勝英（高15）	
	吉山 徹（高15）	小南 克己（高31）	（加古川東高校校長）		

青松会に感謝

日本郵政株式会社 広報部付
部長 社史編集室長

平井 賢治（高29回）



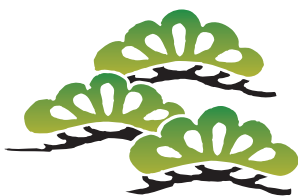
私たち高校29回生は、1974年に加古川東高校に入学しました。ちょうど創立50周年で、記念の歌をみんなで歌いました。それから44年たち、私たちはこの2018年度に還暦を迎えます。

青松会は1975年設立とのことですが、私の記憶が誤っていないければ、第一期の奨学金給付生に選ばれ、大学の4年間、毎月2万円をいただきました。当時国立大学の授業料は数年で8倍にもなっていました。と言っても月8千円（したがって、留年を重ねた上級生の中には月千円という人がいました。）授業料については全く心配する必要がなく、国立大学でも授業料が月4万円を大きく超え、貸与の奨学金の返済に苦しんで「奨学金破産」すらあるという昨今とは異なる幸せな学生生活を送らせていただきました。

私は、大学卒業後は当時の郵政省に勤めましたが、皆さん御存知の「郵政民営化」で会社員となり、現在は、2021年で郵便創

業150年となることから編集することとした社史の仕事をしております。その中でもつくづく感じますが、定額貯金をすれば10年で2倍になった時期もあったのに、低金利からゼロ金利に限りなく近くなつた時期が続き、郵政グループのゆうちょ銀行やかんぽ生命保険の運用での苦勞以上に、リスク資産に手を出すわけにはいかない青松会の御苦勞はさぞやとお察し申し上げております。

お返ししなくてもよい奨学金をいただいたのですが、低金利で運用益が少なく、現役生への給付額を減らさざるを得なくなつたようなことをお聴きした頃から、いただいた額には遠く及ばないさやかなレベルですが、私は、毎年青松会に寄附をさせていただいております。ふるさと納税のように何かいただけるというわけではありませんが、青松会において寄附金は所得税の税額控除が受けられる措置をとっておられますので、給付生だったかどうかにかかわらず、各界で御活躍の清流会の皆さんにおかれては、青松会への御支援をお考えいただければいかがでしょう。



役員一覧

平成30年6月1日現在

元会長 山口 勝英 (高15)
前会長 大西 壯司 (高21)

会長 大庫 隆夫 (高28)

副会長 岡田 義則 (高23)
岡山 幸義 (高28)
大西 淳滋郎 (高29)
北野 砂恵子 (高29)
鈴木 利信 (高31)
黒田 昌宏 (高37)

会計監査 泉 正紀 (高25)
土屋 光世 (高27)

会計 内藤 三恵 (高12)
宮宅 勇二 (高24)

書記 吉原 好美 (高45)
得田 恵司 (高48)

総務委員 畑谷 芋一 (高3)
籠谷 紘義 (高13)
松崎 正俊 (高14)
大庫 俊介 (高19)
仲上 常幸 (高19)
宮宅 勇二 (高24)
宮本 順子 (高31)

小林 尚美 (高32)
榊 眞由美 (高33)
◎坂田 亨 (高35)
細川 恵美子 (高37)
鹿間 聖 (高41)
川崎 万理子 (高41)
○藤本 准一 (高43)
山本 鉄平 (高45)
○大野 恭平 (高46)

文化委員 西村 義富 (高第2)
菅野 正子 (高13)
○岩坂 純一郎 (高20)
川西 幹雄 (高20)
網谷 純子 (高21)
久保 一人 (高22)
◎末澤 正臣 (高30)
佐野 裕美 (高30)
西川 陽子 (高30)
大竹 恭子 (高30)
玉野 ますみ (高30)
小林 直樹 (高33)
○岡崎 美和子 (高33)
阿野 康子 (高39)
宗和 素子 (高46)

体育委員 能田 達三 (高12)
藤原 真理子 (高20)

石堂 求 (高22)
福岡 照文 (高23)
三村 浩之 (高24)
梅谷 誠一 (高24)
◎井岡 徳多郎 (高28)
○坂下 雅一 (高29)
大窪 義崇 (高29)

校長 小南 克己 (高31)

校内幹事 井上 浩義 (高30)
佐野 正明 (高31)
松下 博昭 (高35)

事務長 股野 孝司

事務局 岸本 敦子 (高31)

(◎は各委員会の委員長)
(○は副委員長)



<地域支部>

- 東京支部
松井昭憲 (高30回)
横浜市青葉区
- 大阪支部
山本俊輔 (高25回)
加古郡稲美町
- 奈良支部
板倉敬則 (高18回)
奈良市山陵町

- 姫路支部
平田建喜 (高19回)
高砂市美保里
- 明石支部
森本眞一 (高21回)
明石市大久保町
- 稲美支部
西川征志郎 (高12回)
加古郡稲美町

<職域支部>

- 県庁支部
畠充治 (高29回)
神戸市垂水区
- 神戸教職員支部
松井勝美 (高24回)
明石市二見町
- 三井住友銀行支部
岸本享祐 (高38回)
横浜市区

年次幹事一覧

平成30年6月1日現在

糟谷一郎(中8)	水埜安寛(高15)	沼田勝彦(高31)	正木一行(高45)	廣島麻衣子(高59)
井澤一勝(中13)	山口勝英(高15)	大西賞典(高32)	山本鉄平(高45)	井上紗和子(高60)
武田秀男(中14)	山崎朝美(高15)	岸本真弓(高32)	岸本敏英(高46)	尾上馨(高60)
長谷川和夫(中17)	大下一興(高16)	林和也(高32)	中塚佳子(高46)	山本明日美(高60)
高倉幸七(中18)	清田康之(高16)	劉美鈴(高32)	松林勲(高46)	松尾弘毅(高60)
粕谷衛(中19・20)	小林弘子(高16)	池澤文隆(高33)	大森達也(高47)	木村拓也(高61)
金川俊成(高1)	小山美知代(高16)	田中章子(高33)	吉村博隆(高47)	高橋亜希(高61)
永井万介(高2)	田中靖子(高16)	名定啓介(高33)	赤江泰介(高48)	豊田成隆(高61)
釜谷研造(高第2)	田村明(高16)	西山和仁(高33)	待鳥繁隆(高48)	原佳織(高61)
畑谷芋一(高3)	松尾勝良(高16)	後藤昌之(高34)	本岡文亜(高48)	穂山隼也(高62)
田中愛子(高4)	三宅英璋(高17)	成定淳子(高34)	魚屋由美(高49)	來住翔太(高62)
藤田勇(高4)	森岡史朗(高17)	水埜正彦(高34)	藤原良(高49)	杉田耕介(高62)
内山慶人(高5)	永井一(高18)	釜谷泰造(高35)	安田薫(高49)	三木原良輔(高62)
鷺澤素子(高5)	清水賢二(高19)	小山三佳(高35)	家氏純子(高50)	新田薫(高63)
菅原啓文(高5)	仲上常幸(高19)	加古武史(高36)	妙中いつか(高50)	西田早織(高63)
石原謙一(高6)	岩坂純一郎(高20)	小嶋志之(高36)	北江直樹(高50)	蓬萊翔吾(高63)
坂田雅文(高6)	藤原真理子(高20)	野上稔(高36)	森本龍介(高50)	菅藤理也(高64)
西海郁雄(高6)	北条雅紀(高21)	藤城奈律枝(高36)	河田直子(高51)	佐伯直澄(高64)
西谷正(高6)	石堂求(高22)	新井睦美(高37)	澁谷恒一(高51)	野田葵(高64)
立花幸子(高7)	山崎敏美(高22)	黒田昌宏(高37)	長澤達朗(高51)	松本悠希(高64)
藤原義昭(高7)	金川種弘(高23)	長谷川哲也(高37)	原敏生(高51)	永井翔龍(高65)
井上勝博(高8)	林郁朗(高23)	田中勇一(高38)	小阪田泰子(高52)	正川みのり(高65)
富田鍊哉(高8)	岩本善典(高23)	初瀬富美子(高38)	荻野心平(高52)	見塚圭一(高65)
水口嘉代子(高8)	小林達子(高24)	片山憲一(高38)	柏井康彦(高52)	米田奈生(高65)
磯野達(高9)	三村浩之(高24)	別所真(高39)	林郁子(高52)	伊賀優花(高66)
上田佳子(高9)	安田しをり(高24)	松井亜希子(高39)	川田直寛(高53)	木村雄亮(高66)
十倉茂明(高9)	衣笠仁浩(高25)	三谷佳裕(高39)	堰本愛(高53)	千歳吾朗(高66)
内藤美栄子(高9)	小林孝子(高25)	西川隆博(高40)	中山智裕(高53)	津村海謡(高66)
井原源介(高10)	沢田敏郎(高25)	堀井信明(高40)	桑野浩(高54)	池野和之介(高67)
大辻利弘(高10)	山本普子(高25)	前田恵美(高40)	西田寛(高54)	坂本晴輝(高67)
神吉賢一(高10)	下村浩司(高26)	頼洋理子(高40)	藤井美穂(高54)	中村遥佳(高67)
長谷川好一(高10)	畠房生(高26)	北川寿一(高41)	井上祐輔(高55)	三好菜月(高67)
内田明美(高11)	本岡茂範(高26)	小牧清彦(高41)	中原初実(高55)	南奈緒(高68)
後藤太原麿(高11)	浅場知洋(高27)	鹿間聖(高41)	砂川祐子(高55)	吉田篤史(高68)
土師さかゑ(高11)	網干美保(高27)	平田ひとみ(高41)	庄司博美(高56)	溝口真梨奈(高68)
原雅子(高11)	上野均(高27)	生田聡(高42)	門地あゆみ(高56)	遠藤由基(高68)
阿江縫子(高12)	井岡徳多郎(高28)	坂本佳恵(高42)	八木勇磨(高56)	畑颯大(高69)
長谷川募(高12)	松本高亮(高28)	吉井妙(高42)	田中章浩(高56)	渡邊千加(高69)
松田欣治(高12)	森本幸吉(高28)	今井甲二郎(高42)	東達也(高57)	塩谷優(高69)
山口久子(高12)	城伸幸(高29)	掛川佳世子(高43)	大滝翔(高57)	上田大一郎(高69)
籠谷紘義(高13)	新田順子(高29)	宮本雅之(高43)	前田瑠依(高57)	長谷川和弥(高70)
菅野正子(高13)	松下正明(高29)	井上智史(高44)	稲岡孝介(高58)	山本悠太(高70)
堀井扶佐子(高13)	末澤正臣(高30)	岡本賢裕(高44)	山田昌代(高58)	樋口夕希子(高70)
竹内和弘(高14)	西岡拓代(高30)	筒井利典(高44)	藤村泰仁(高58)	橋本満理奈(高70)
松崎正俊(高14)	川口和代(高31)	田中かおり(高45)	永島陽子(高58)	
三宅隆宏(高14)	佐伯明子(高31)	高塚香織(高45)	大西賞尚(高59)	
住友義男(高15)	鈴木利信(高31)	原田かおり(高45)	籠谷真奈(高59)	
福田嘉子(高15)	玉奥満(高31)	北條俊正(高45)	島津高英(高59)	

平成29年度 清流会収支決算書

(平成29年6月1日～平成30年5月31日)

収入の部

決算額－予算額＝マイナスの時▲

単位：円

科 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
1. 会 費 等 収 入	8,076,000	8,586,000	510,000	
卒 業 生 会 費	6,750,000	6,585,000	▲ 165,000	3,000円×2,195件(前年度：6,666,000)
在 校 生 会 費	1,296,000	1,258,000	▲ 38,000	H30年度新入生 1クラス減
特 別 寄 付 金	30,000	743,000	713,000	18件
2. 雑 収 入	1,500,000	1,975,161	475,161	総会、新年会、利息他
3. 前 年 度 繰 越	2,623,726	2,623,726	0	
合 計	12,199,726	13,184,887	985,161	

支出の部

決算額－予算額＝マイナスの時▲

単位：円

科 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
1. 事 務 費	1,220,000	1,583,255	363,255	
事 務 手 当	650,000	648,500	▲ 1,500	
消 耗 品 費	100,000	63,662	▲ 36,338	文具、コピー他
通 信 費	230,000	215,421	▲ 14,579	電話、ハガキ他
振 込 手 数 料	230,000	222,620	▲ 7,380	年会費振込手数料
雑 費	10,000	433,052	423,052	コピー機購入、残高証明手数料
2. 会 議 費	160,000	119,877	▲ 40,123	
諸 会 合 費	120,000	101,609	▲ 18,391	オール・本部役員会
総 務 委 員 会 費	20,000	9,155	▲ 10,845	
文 化 委 員 会 費	10,000	9,113	▲ 887	
体 育 委 員 会 費	10,000	0	▲ 10,000	
3. 事 業 費	8,770,000	8,631,153	▲ 138,847	
総 会 ・ 新 年 会 費	2,000,000	2,140,753	140,753	
清 流 発 行 発 送 費	4,500,000	4,328,859	▲ 171,141	
会 員 美 術 展 開 催 費	0	0	0	
ゴ ル フ 等 開 催 費	20,000	20,000	0	ゴルフ・グラウンドゴルフ大会
支 部 活 動 費	650,000	550,000	▲ 100,000	支部会、年次会祝い他
旅 費 交 通 費	300,000	239,000	▲ 61,000	支部会への出席旅費交通費
部 活 動 等 助 成 金	800,000	503,485	▲ 296,515	部活動支援
奨 励 表 彰 費	400,000	319,056	▲ 80,944	新入会員記念品、表彰
慶 弔 費	100,000	30,000	▲ 70,000	お祝い、弔電、饗別等
そ の 他	0	500,000	500,000	学校指定寄付
4. 予 備 費	1,749,726	0	▲ 1,749,726	
5. 周 年 事 業 支 出	300,000	300,000	0	周年事業支出
6. 次 年 度 繰 越	0	2,550,602	2,550,602	
合 計	12,199,726	13,184,887	985,161	

収入 13,184,887 支出 10,634,285 次年度繰越 2,550,602

周年記念事業等特別会計決算書（平成30年5月31日） 単位：円

項 目	金 額	摘 要
前 年 度 繰 越 金	7,906,335	郵便局定額貯金 2,808,000 ゆうちょ銀行総合 2,367,217 三井住友（スーパー定期4口） 2,731,118
一般会計からの繰入金	300,000	
利 息	544	
合 計（次年度繰越金）	8,206,879	郵便局定額貯金 2,808,000 ゆうちょ銀行総合 2,667,237 三井住友（スーパー定期2口） 2,731,642

教育助成基金会計報告書（平成30年5月31日） 単位：円

項 目	金 額	摘 要
前 年 度 繰 越 金	2,078,728	三井住友（普通）
利 息	16	(8/22分 9) (2/19分 7)
支 出	2,070,090	
合 計	8,654	次年度へ繰越

監 査 報 告

平成29年度決算、並びに周年記念事業等特別会計について、通帳、諸帳簿を監査した結果、すべて正確かつ適切に記入されていることを報告します。

平成30年6月7日

会計監査 泉 正 紀

会計監査 土 屋 光 世

平成29年度事業報告書

事業名	開催回数
総会	1
新年懇親会	1
会計監査	1
正副会長会	2
本部役員会	5
オール役員会	1
総務委員会	5
文化委員会	3
体育委員会	2
入会式	1
支部総会	9
年次同窓会	8

叙勲・褒章・表彰のお祝い

各界で活躍されている清流会員で、叙勲、褒章、表彰などを受章された方々を祝意を込めて紹介させていただきます。(順不同、敬称略)
全ての情報が必ずしも事務局に寄せられているわけではありませんので、ご紹介できずに失礼していることがあると思います。

今後ともご紹介を続ける予定ですので、情報をお寄せ下さるようお願いいたします。

<2016年秋の叙勲>

瑞宝双光章 黒川 貴一郎 (中18回) 県 職員

<2017年秋の叙勲>

瑞宝双光章 松本 義明 (高4回) 労働行政事務
旭日小綬章 渡辺 健一 (高17回) 産業振興

<2018年春の叙勲>

旭日小綬章 樽本 庄一 (高11回) 地方自治
瑞宝単光章 井上 弘幸 (高17回) 警察
瑞宝小綬章 岸本 芳信 (高17回) 教育

委員会からの報告

総務委員会

委員長 坂田 亨 (高35回)

総務委員会では、会費納入率の向上と会員相互の親睦を深めるべく、月1回のペースで協議を重ねています。年会費の納入者は5年前と比べ約160名減少していることから、年会費納入のPR、納め易くする工夫などを検討中ですが、これをご覧になった皆様には早期の会費納入をよろしくお願いいたします。

会費納入先:

但陽信用金庫 本店 普通 口座番号 5385680

また、会員相互の親睦を深めるべく、各方面へ支部等の設立を呼び掛けたところ、平成30年2月10日に「三井住友銀行支部」が新設されました。現在、もうひとつ新支部設立の相談があります。新支部設立の相談は、清流会事務局(電話079-421-0373、月、木の午前中)へお願いします。

その他、恒例となっています新年会(平成30年1月12日(金))には77名の参加があり、岩本雅博氏(高24)と寺岡錠平氏(高29回)の尺八の協奏が、新春らしい雰囲気を作りました。同じく、恒例の夏の総会は平成30年8月5日(日)午前11時からを予定していますので、大勢の参加をお願いします。

文化委員会

委員長 末澤 正臣 (高30回)

平成29年度は年次会の開催が少なかったのですが、木下元会長の追悼ページや母校関係の表彰者ページを広げたこともあり、「清流」第53号も20ページの構成となりました。大庫会長の熱い思いで、新たな職域支部も誕生したことも、今号の嬉しい話題となりました。

また、クラブ活動OB・OGの懇親会などの報告は、陸上部とバスケットボール部に寄稿していただきました。

今年は、美術展(8月4日、5日)の開催もあり、文化委員会としては忙しい年度となっています。今後の「清流」の紙面や清流会ホームページの充実、美術展を活性化させるためにも、より若い世代(高40以降)の皆様の文化委員会への参画をよろしくお願いいたします。

体育委員会

委員長 井岡 徳多郎 (高28回)

平成29年度体育委員会では、二つの事業を行いました。

①第115回清流会ゴルフ大会を平成29年9月14日に加古川ゴルフ倶楽部にて開催致しました。

優勝は樋口 忠司様(高16回)、準優勝 坂下 雅一様(高29回)でした。おめでとう御座います。

②第12回清流会グランドゴルフ大会を平成30年4月13日に日岡山公園サッカー場で開催いたしました。

優勝は井澤 丑二良様(高9回)、準優勝 大西 一彦様(高14回)でした。春のボカボカ陽気の中、皆さん元気一杯楽しくプレーされていました。

平成30年度も引き続き二つの事業を予定しております。

①第116回清流会ゴルフ大会

日時:平成30年9月13日(木)

場所:加古川ゴルフ倶楽部

②第13回清流会グランドゴルフ大会

日時:未定(春先の暖かい時期)

場所:日岡山公園サッカー場

※初参加の方も含めて、皆様と楽しい時間をすごしたいと思っておりますので多くの参加をお待ちしております。



清流会からのお知らせとお願い

地域支部総会・職域支部総会・年次会について

開催されるときは、本部事務局へご連絡をお願いします。会長(代理)がお祝金をお届けし、母校の近況報告をさせていただきます。

年次会の開催にあたっては、案内状発送の便宜を図るため、年次会員の宛名シール等を用意いたします(但し有料です。詳しくは事務局まで。)

住所など変更の場合

住所、氏名などに変更が生じたときは事務局へご連絡ください。

お祝いについて

1. 還暦・古稀・傘寿・米寿・白寿のお祝いはいすべて3,000円とします。(但し、総会出席者のみです)
2. 叙勲・褒章受章は祝電をお送りします。

会員死亡の場合

全会員を対象に弔電をお送りいたしますので、事務局へお知らせください。(香料は差し上げていません)

特別寄附金で協力をお願い

同窓会費は在校生の部活動の支援にも使わせていただいています。在校生の活躍は同窓生にとっても大きな喜びですが、それなりの費用がかかるのもまた現実問題としてあります。

年次同窓会での余剰金や慶事記念行事の際などにご寄附いただければ幸いです。

会員の皆様に年会費納入のお願いをした上に、誠に心苦しいのですが母校支援のための特別寄附金(金額はいくらでも結構です)のご協力をお願い申し上げます。

同封の振込用紙をご利用ください。

但陽信用金庫本店営業部 普通5461365
兵庫県立加古川東高等学校清流会特別寄附
会長 大庫 隆夫

平成30年度 清流会総会

～ 光はつねに東より ～

恒例の総会が近づいてきました。会員であればどなたでも参加可能です。お問い合わせのうえご出席下さいませよう、ご案内申し上げます。

日 時 平成30年8月5日(日)
11:30～(受付 11:00～)

会 場 加古川プラザホテル
(Tel: 079-421-8877)

会 費 6,000円

次 第 ①総会

②在校生によるアメリカ研修報告

③講演 魚住孝至氏(高24回)放送大学教授

④懇親会(豪華な福引あり)

◎ご出席の方は、同封のハガキで7月27日までに返信ください。

◎懇親会では、白寿(中10) 米寿(中22・高2) 傘寿(高10) 古希(高20) 還暦(高29)の方へのお祝いをしております。該当する回生の方は、ぜひご出席ください。

◎各支部長様は、10時からの懇親連絡会にご出席をお願いいたします。

今年度の支部総会・年次会など

東 京 支 部	2018年11月9日 アルカディア市ヶ谷	松井 昭憲
大 阪 支 部	2018年9月15日 大阪神仙閣	山本 俊輔
奈 良 支 部	2018年9月2日	板倉 白雨
姫 路 支 部	未 定	平田 建喜
明 石 支 部	2019年2月14日 キャッスルプラザ	森本 眞一
稲 美 支 部	2018年7月1日 稲美町コミュニティセンター	西川征志郎
県 庁 支 部	未 定	畠 充治
神戸教職員支部	未 定	松井 勝美
三井住友銀行	未 定	岸本 享祐
高3回	2018年11月4日	畑谷 芋一
高9回	2018年9月27日	十倉 茂明
高11回	2018年10月17日	土師さかゑ
高24回	2018年8月12日	小林 泰造

● 清流会事務局の執務案内 ●

清流会事務局は、母校内の清流館3階にあります。
岸本敦子さん(高31回)が事務局員として執務しています。

執務日は毎週月曜日と木曜日の午前中です。

TEL: 079-421-0373 FAX: 079-421-8464

TEL: 079-424-2726 (緊急時学校)

メールアドレス: kakohigashiseiryukai@topaz.ocn.ne.jp

清流会ホームページ



清流会では、ホームページも開設しております。

<http://seiryu-kai.jp/>

年次会の案内や報告にご利用ください。会員のトピックスなども歓迎いたします。

東京支部や稲美支部のホームページにもリンクしています。ぜひ、ご覧ください。

facebookの清流会グループページもご利用ください。

<https://www.facebook.com/groups/seiryu/>

第17回清流会会員美術小品展のご案内

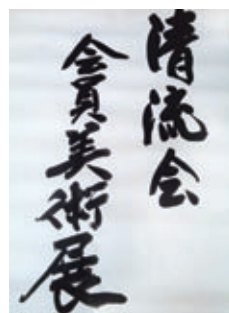
清流会会員美術展は隔年開催です。

この機会に是非ご覧ください。

●と き: 平成30年8月4日(土) 午後1時～午後5時
8月5日(日) 午前9時半～午後4時

●と ころ: 加古川商工会議所 1階展示ホール
(総会会場の加古川プラザホテルと同じ建物内です)

●入場無料



年会費納入のお願い

清流会の事業は会員の皆様からの年会費でまかなわれています。近年は会費納入者が減減化の傾向にあります。在校生の支援や同窓生の交流事業を進めるために年会費3,000円の納入をお願いいたします。納入期限は平成31年5月31日になっておりますが、早期の納入にご協力を重ねてお願いいたします。

納入に際しては同封の振込用紙(コンビニ、郵便局、但陽信用金庫)をご利用ください。手続きが初回のみで済み、毎年窓口で振り込む手間が不要になる但陽信用金庫の「定額自動送金サービス」を利用して納入することもできますのでご利用ください。

会費納入先: 但陽信用金庫 本店 普通 口座番号 5385680

会費納入者 3,000人目標! (平成29年度 会費納入者2,165人)